

「堅固な足場を失わないように」

2019年07月16日

ペトロの手紙 二 3章14節～18節 だから、愛する人たち、このことを待ち望みながら、きずや汚れが何一つなく、平和に過ごしていると神に認めていただけるように励みなさい。また、わたしたちの主の忍耐深さを、救いと考えなさい。それは、わたしたちの愛する兄弟パウロが、神から授かった知恵に基づいて、あなたがたに書き送ったことでもあります。彼は、どの手紙の中でもこのことについて述べています。その手紙には難しく理解しにくい個所があって、無学な人や心の定まらない人は、それを聖書のほかの部分と同様に曲解し、自分の滅びを招いています。それで、愛する人たち、あなたがたはこのことをあらかじめ知っているのですから、不徳な者たちに唆されて、堅固な足場を失わないように注意しなさい。わたしたちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しなさい。このイエス・キリストに、今も、また永遠に栄光がありますように、アーメン。

「著者」は、「愛する人たち」と何度も呼びかけながら、最後に「だから、愛する人たち、このことを待ち望みながら、きずや汚れが何一つなく、平和に過ごしていると神に認めていただけるように励みなさい」と、主イエスの来臨の日を待ち望み、汚れなく、平和に過ごしていると、神に認めていただけるように励みなさいと勧めている。また、主の忍耐深さが、私たちの救いであると考えなさいと言う。このことは、兄弟パウロが、神から授かった知恵に基づいて、あなたがたに書き送ったことでもあると述べている。パウロが書き送った手紙とは、「神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人を憐れむためだったのです（ローマ11:32)」、「あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう（ローマ13:11-12)」などを指しているのではないか。主イエスの来臨による救いの時は迫っている。目を覚まし、光の武具を身に着けよう。パウロは終末日が切迫していると説き、また同時に、主イエスの来臨を遅らせて、人々を不従順の状態に閉じ込めているのは、全ての人を悔い改めさせて救われるように猶予を与えた神の憐れみであると語っている。

パウロの手紙は難しく、理解しにくい個所があって、無学な人や心の定まらない求道者は、他の聖書の部分と同じように曲解し、自分に裁きを招くことがあると注意している。「それで、愛する人たち、あなたがたはこのことをあらかじめ知っているのですから、不徳な者たちに唆されて、堅固な足場を失わないように注意しなさい。わたしたちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しなさい。」信仰は、神がイエス・キリストの十字架と復活において、私たちを愛してくださっていることを信じる単純なことである。しかし、言葉が増え、複雑になると、誤解し、理解できなくなることがある。この世の論理に巻き込まれ、自分を失い、信仰から離れるようになる。あなたがたは主イエスの福音をしっかりと理解しているのだから、不徳な者たちに唆されて、神が示してくださった堅固な足場から落ちないように注意しなさい。救い者イエス・キリストの恵みと知識において、成長する者となりなさい。

「このイエス・キリストに、今も、また永遠に栄光がありますように、アーメン」という定型の祝祷をもって手紙を書き終えている。